

## 創 立 の 頃 の こ と

岩 永 伸\*

新潟応用地質研究会ができた約30年前は、ようやく土木地質の分野の重要性が社会的にも学問的にも認められてきた頃でした。またこの仕事にたづさわる地質家も徐々に増えて来ました。しかし、まだ土木と地質との結びつきがしっくり行かず、色々の悩みもありました。関連学会も発足してまだ日が浅いものが多く、土質工学会は10年目を迎えていましたが、日本応用地質学会と日本地下水学会はまだ2年、地すべり学会はまだ発足していないという状況です。したがって情報の洪水のような現在と違って専門知識を身につけるのも容易ではありませんでした。

当時、新潟県庁には地質関係者が土木・資源関係などを中心に13名おりました。私も農地部農地建設課にいましたが、農業土木技術者の中にいて教えてくれる人もいなく、また、ろくな資料もありませんでした。ダム地質は北海道で多少経験していましたが、今まで見たことがなかった奇妙な地すべり地形、軟弱地盤の化物丁場などには驚かされました。その頃はもう地質を多少知っているというだけで土木地質の仕事をこなせる時代ではなかったのです。

そのような時に新潟応用地質研究会をつくり、お互に情報交換し技術の向上をはかろうという話が企業局の中野さん（現、㈱キタック中山社長）から出ました。主旨には無論大いに賛成で、喜んで私も世話人の一人となりました。

設立総会は昭和37年3月1日に新潟大学理学部で開かれました。私も運営委員（翌年に幹事と改称）の一人になりましたが、すべて独身者でした。会員は39名で大学・国・県・地質コンサルタントなどが主体でした。

当時の会費は300円（翌年400円、昭和41年から500円に値上げ）と安く、会費だけで運営するのは大変でした。それで1口5,000円として第2号から広告を載せることにしました。色々な関連する会社にお願ひし、4年後には8社から広告料をいただきました。だまっていたも進んで出して下さった会社や、まるで贈賄を強要されたかのようにいやな顔をされたことなど色々思い出されます。

会員増のPRにもつとめ、県の土木技術者、農業土木技術者などにも呼びかけ、4年後には会員数は128名となりました。この頃が当会の前期での活動のピークで、幹事達も若くて熱気がありました。創立の翌年には幹事会を月1回開くことに決めました。さすがにこれは実行が難しかったのですが、41年には9回もの幹事会をやっています。ほかに新潟平野分科会というのをつくり、この会合が年8回もありました。これらの活動にともなってこの年には4冊もの会誌を発行し、内容も地すべり、軟弱地盤、トンネル、地盤沈下、天然ガス、温泉、土壌など多岐にわたり充実しました。

また、この年には新大の茅原先生（現新大名誉教授、㈱キタック最高技術顧問）によるシュミットの使用法の講習会が土曜日の午後を利用して2回ありました。このほか残念ながら私は仕事の都合で参加できませんでしたが、弥彦・寺泊方面への見学会もあり、家族同伴の人もあり、45名もの参加者があったとのことでした。

---

\* ㈱キタック常務取締役、監査

当時の幹事会は大正理学部で午後6時頃からはじめ、8時頃までやるのが通例でした。8時30分頃までやったこともあります。そのあとは大抵夜のネオン街へくり出し、3～4人で談論風発とともに3軒位まわり、11時頃帰宅するというのがいつものパターンでした。

41年に活動しすぎたためか、それとも幹事が30歳台が主体となり要職になって仕事が忙しくなったためか、翌年見学会をしたあとはスランプに落入了りました。その後は5年間ばかり活動を停止したのです。このため計画をしていた5周年記念誌も残念ながらまぼろしとなりました。また、新潟平野の柱状図を収集し、平野の地質や生い立ちをさぐるという仕事も途中で頓座してしまいました。

しかし、この時の見学会は楽しいものでした。南阿賀油田や49号線改良工事、阿賀用水などを見たほか、旗野姉妹がやっている庵地焼の工場を見学して茶碗を買ったり、綱木付近で山菜を沢山取ったりしました。家族づれの人も多く、幼い子供の手を引いたお父さん、赤ちゃんをおんぶしたお母さん、婚約者を妹と称して連れて来た結婚間近の某氏などにぎやかなものでした。

研究会の再発足は47年3月で、その後は年一冊、52年には休み、その後また52年から7年間休みという超スランプが続きました。しかし、この会をなんとか続けたいという会員の皆さんの熱意と、台頭して来た若手の努力で61年以来順調に発展しており喜ばしいかぎりです。

社会資本の充実の必要性が叫ばれているなかで、30年前とは比較にならない位に土木地質の重要性は増し、また仕事量も増え、関連業界も発展してきました。それにともなって当会のはたす役割も大きくなっています。これからもお互にスランプに落入らぬよう頑張ってください。